

シンガポールの政策 港湾政策編

2021年7月 一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所

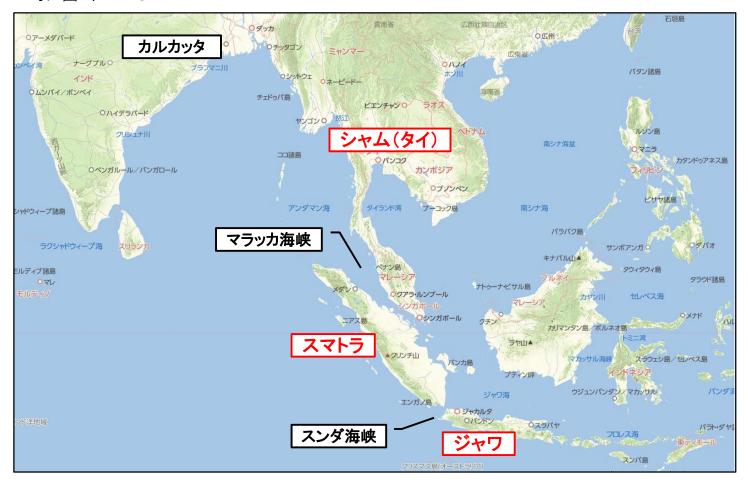
目 次

- 1. 港湾都市としての成り立ち
- 2. 貨物取扱量の推移
- 3. シンガポール港の概要
- 4. 4つの主要ターミナル
- 5. 港湾管理組織の沿革
- 6. 港湾設備とサービス
- 7. 今後の展望(政策概要)

1. 港湾都市としての成り立ち

■地理的優位性

- ・アジアとヨーロッパを結ぶ航路上にある
- ・元来台風などの自然災害のリスクが低く、植民地時代にオランダ・ポルトガルの影響下になかった



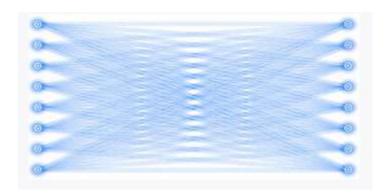
1. 港湾都市としての成り立ち

■中継貿易の仕組み

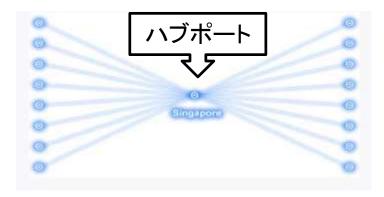
積み荷港から輸送された荷物を、途中の港(ハブポート)で別の船に積み替え、 最終の積み下ろし港に輸送するもの。トランシップとも呼ばれる。

大型船の運航上、いったん荷物を集約した方が良い場合などで行われる。 なお、シンガポールに到着したコンテナの約85%が、中継貿易のものである。

- ○8つの地域から、8つの地域へ輸送する場合
 - 各地から直接輸送する場合



中継貿易を利用する場合



出典: PSAホームページを基に作成

1. 港湾都市としての成り立ち

年月日	出来事						
1819年1月28日	英国東インド会社のスタンフォード・ラッフルズ卿の上陸						
1830年代~	マレー半島で産出されるガンビア、スパイス、原油、天然ゴム、錫等 の積出港として発展						
1963年9月16日	963年9月16日 マレーシア連邦の一州として英国から完全独立						
1964年4月1日	シンガポール港湾庁(PSA)が設立						
1965年8月9日	マレーシアから分離独立、シンガポール共和国が成立						
1972年	東南アジア初となるコンテナターミナルが完成						
1990年	コンテナの取扱量が初めて世界一となる						
1990年代	世界最大の貿易港としての地位を確立						



2. 貨物取扱量の推移

■シンガポール港と日本主要5大港の

単位:万TEU (貨物量単位) **※1**TEU = **20**フィートコンテナ

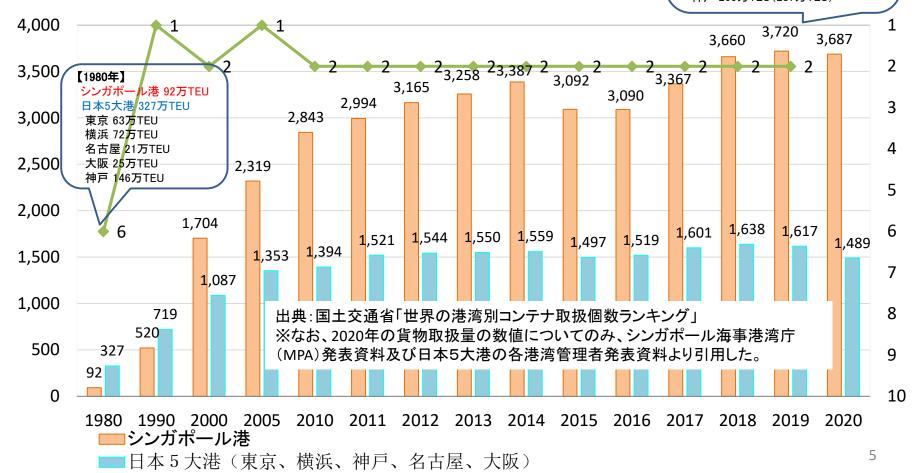
貨物取扱量の比較

【2020年】()内は2019年数値

シンガポール港 3,687万TEU (3,720万TEU)

日本5大港 1,489万TEU(1,617万TEU)

東京 475万TEU(501万TEU) 横浜 266万TEU(299万TEU) 名古屋 247万TEU(284万TEU) 大阪 236万TEU(246万TEU) 神戸 265万TEU(287万TEU)



2. 貨物取扱量の推移

■貨物取扱量の世界上位10港

単位:万TEU(貨物量単位) **※1**TEU = 20フィートコンテナ

順位	1980年		1990年		2000年		2005年		2010年		2019年	
	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量
1	NY/NJ	195	シンガポール	520	香港	1,810	シンガポール	2,319	上海	2,907	上海	4,330
2	ロッテルダム	190	香港	510	シンガポール	1,704	香港	2,260	シンガポール	2,843	シンガポール	3,720
3	香港	147	ロッテルダム	368	釜山	754	上海	1,808	香港	2,370	寧波	2,754
4	神戸	145	高雄	350	高雄	743	深圳	1,620	深圳	2,251	深圳	2,577
5	高雄	98	神戸	260	ロッテルダム	628	釜山	1,184	釜山	1,419	広州	2,324
6	シンガポール	92	釜山	236	上海	561	高雄	947	寧波	1,314	釜山	2,199
7	サンファン	85	ロサンゼルス	212	ロサンゼルス	488	ロッテルダム	925	広州	1,255	青島	2,101
8	ロングビーチ	83	ハンブルク	197	ロングビーチ	460	ハンブルク	809	青島	1,201	香港	1,830
9	ハンブルク	78	NY/NJ	190	ハンブルク	425	ドバイ	762	ドバイ	1,160	天津	1,730
10	オークランド	78	基隆	181	アントワープ	408	ロサンゼルス	749	ロッテルダム	1,115	ロサンゼル ス/ロング ビーチ	1,697

出典:国土交通省「世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキング」

3. シンガポール港の概要

■シンガポール港

120ヵ国以上の600の港と結ばれている世界最大級のハブ港

①総面積:817ha(東京ドーム約174個分)

②岸壁延長:21,033m

③最大水深:18m

④コンテナバース数:66か所

⑤コンテナ用クレーン数:195基

⑥貨物取扱能力:4,300万TEU

⑦運営:PSAコーポレーション



出典: PSA及び日本港湾協会ホームページを基に作成



主なデイリー運航便

オーストラリア: 3、中南米: 1、中国・香港・台湾: 12、

ヨーロッパ: 4、日本: 3、南アジア: 8、

東南アジア:34、アメリカ:2

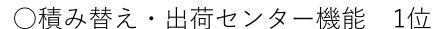
3. シンガポール港の概要

世界の港湾都市ランキング(2019)

総合世界1位(2019年)

- 1位 シンガポール
- 2位 ハンブルク
- 3位 ロッテルダム
- 4位 香港
- 5位 ロンドン
- 6位 上海
- 7位 オスロ
- 8位 東京
- 9位 ドバイ
- 10位 釜山
- 11位 アテネ
- 12位 ニューヨーク
- 13位 コペンハーゲン
- 14位 ヒューストン
- 15位 アントワープ

出典: THE LEADING MARITIME CAPITALS OF THE WORLD



- ○港湾物流機能 1位
- ○魅力・競争力 1位



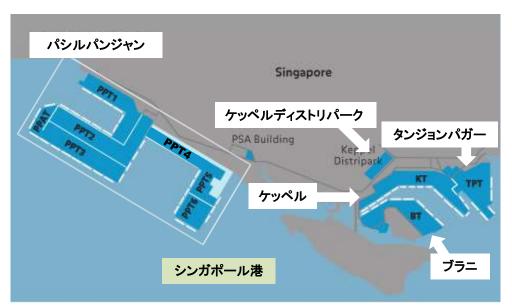


4. 4つの主要ターミナル

■各ターミナルの位置



■各ターミナルの概況



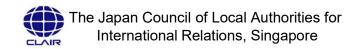
ターミナル名	タンジョンパガー	ケッペル	ブラニ	パシルパンジャン
面積	79. 5ha	102. 5ha	84ha	551ha
埠頭の長さ	2, 097m	3, 164m	2, 325m	13, 447m
最大深	14.8m	15.5m	15m	18m
コンテナバース数	7	14	8	37
クレーン数	0	21	26	148

出典: PSA ウェブサイトの情報を基に作成

5. 港湾管理組織の沿革

- 1863年 中国人実業家であったタン・キム・チン(Tan Kim Ching)が タンジョンパガードックカンパニー(1913年にシンガポール港湾委員 会に移行)を設立し、2隻の蒸気船とともに営業を開始。
- 1964年 シンガポール港湾委員会を前身とする、シンガポール港湾庁 (PSA:The Port of Singapore Authority)が設立。
- 1997年 港湾ターミナル及び施設の運営を担う株式会社PSAコーポレーションとして民営化。 (前年に海事港湾庁(MPA:Maritime and Port Authority) へ海事、港湾業務の監督などの機能が移管)
- 2003年 組織再編成により、政府系投資会社のテマセク・ホールディングスが全額出資する、PSAインターナショナルが設立され、株式会社PSAコーポレーションはその子会社となった。

6. 港湾整備とサービス



TradeNet、TradeXchange → Networked Trade Platform (NTP) (政府機関と連動した通関システム+貿易物流業界の情報交換プラットフォーム)

・通関手続きのワンストップ化

PORTNET (海運事業者向けの商取引システム)

入港手続きやコンテナターミナルの利用に関する情報を一括管理

CITOS (ターミナル操作管理システム)

・コンテナの積み替え作業、トラックの配置等を中央制御室で一括管理

Flow-Through Gate (港湾施設入口ゲート通過システム)

• IT技術を駆使したスムーズなセキュリティチェック

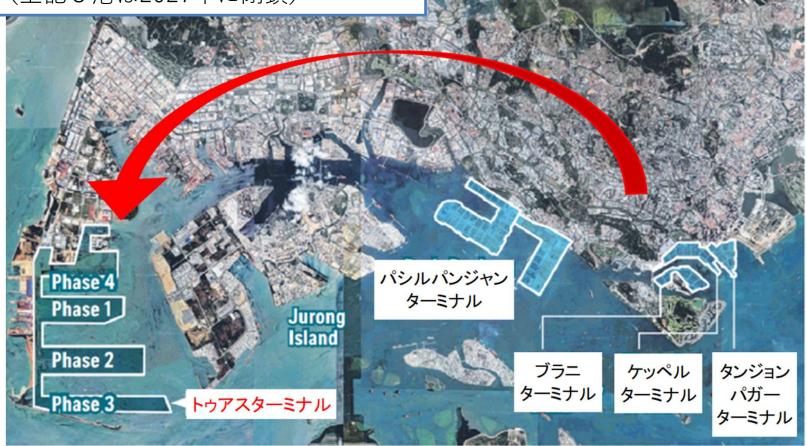
RCOC (遠隔クレーン操作・制御システム)

・自動化クレーン操作による生産性向上

7. 今後の展望(政策概要)

①タンジョンパガー、ケッペル、ブラニのターミナルの機能をトゥアスへ移転し、2021年にフェーズ1が供用開始(上記3港は2027年に閉鎖)

②パシルパンジャンターミナルの 機能を2040年を目途にトゥアス地 区へ移転



出典: THE STRAITS TIMES



The Japan Council of Local Authorities for International Relations, Singapore